

【仕事のやりがい】

11	勤労属性に限った要因分析は 今回得られた新しい知見なので書き込むべき 。勤労属性に限ることで新しく浮上しており、実数としても53人の方が回答しているのであれば、実感が上昇した方の「職場の人間関係」とほぼ同じくらいの実数であり、これを無視するというのは良くないのではないかと思う。	谷藤委員	意見	第3回
12	働いていない人に仕事のやりがいを聞くのは、答える方も答えにくい。そこを合わせるためにも働いている人に理由を聞く方がイメージとしてはあっている。	吉野部長	意見	
13	60歳以上の無職という人たちの意見も入っているのとなる。そうなれば、働いている人の理由はどうなっているのかは自然な疑問である。それを分析して新たなものが出てきたというのであれば、それはやはり書き込むべきだと思う。	谷藤委員	意見	
14	7番の「収入・給料以外の待遇・処遇（休暇・手当など）」は、最近変わってきたと思うが、横で比較すると、ここは違う動きをしているので、これを特記事項として入れるのはどうか。	山田委員	意見	
15	7番は恩恵を受けている人は気にならない。 こういうのは、就活などで見る初任給などでは分からないところもあって、退職金がない民間企業もごく普通にある。年金も普通に厚生年金をかけているのが普通だと思うが、企業年金をかけている企業もある。そういう話は、自分は知らなくてもお前の会社そうなんだと入ってくる。そういうので、ない方の人には気になる。ある方の人には当たり前だと思うから気にならない。	谷藤委員	意見	
16	横だけではなく、縦で見ても、将来の給料の見込みよりも割合が高いというのが気になっており、そういう意味でも待遇に対する不満というのは結構大きいのかと感じた。	和川委員	意見	
17	70歳以上の半分以上が働いて、やりがいがない。意外と70歳以上が働いている。この分野では、70歳以上が一番高い。	Tee委員	意見	
18	前回の資料の70歳以上の感じない人の理由を見ると、「以前は仕事をしていたが、今はしていない」「専業主婦（主夫）家事手伝いである」とあり、これをどう解釈するかになる。	和川委員	意見	
19	就業形態の正規・非正規については、コロナが原因かどうかは分からないけれども、コロナによってこの問題が顕在化したという書き方がよい かと思う。女性の就労のところなんですけれども、非正規という問題は前からあった話で、仕事のやりがいというところで書くべきかどうかは分からないが、分野別実感の理由別分析で実感が低下した人の3位に上がってきているところをまずは捕まえておいて、顕在化したという分析がよいのではないか。というのは、令和3年度版の男女共同参画白書では、コロナの影響というのに、パートやサービス業についているような人にかかなり大きな影響を与えているという分析があるので、今回県のデータからは言えないかもしれないけれども、無関係ではないということを意識しておいた書き方にしておいた方がよい。収入所得のところも同様にお願いしたいと思っていた。	竹村委員	意見	
20	コロナという文言を入れるかは、この分析ではなく、資料2-4-3をH31とR2とR3を見れば言えるかもしれないが、はっきりとは言えないので、書いてしまうと心配だと思った。	Tee委員	意見	